

当歯科におけるインシデントの実態調査

○横山 朋美、井形 紀子、米澤 彩美、東 優里、
重田 浩樹

しげたこども歯科

【目的】

インシデントとは実際には事故につながらなかったが、可能性として重大な事故になっていたかもしれない事態のことを指し、それらを把握し情報を共有することでアクシデント発生の未然防止策や再発防止策を立てることが可能となる。当歯科でもその考えのもと、月1回のミーティングで新たに発生したインシデントの情報を周知し、共有してきた。今回、これまでのインシデント事例を整理し、実態について調査したので報告する。

【方法】

2014年6月から2017年5月の3年間に報告された175件のインシデント事例の実態を①経年変化別、②月別、③曜日別、④予約時間別、⑤場所別、⑥事例別、⑦患者影響レベル¹⁾別の7項目に分けて集計した。また、①～⑥の結果には患者影響レベルを加味して評価を行った。

【結果】

①経年変化別では2014年7月が最も多く、次いで2015年3月、2014年11月の順であった。②月別では7月が最も多く、次いで2月と8月であった。③曜日別では来院患者数の多い土曜日が最も少なくなっていた。④予約時間別では9時が最も多く、次いで17時30分、15時の順であった。⑤場所別では定期検診室が72件と最も多く、次いで処置室の47件、受付の31件の順であった。なお、定期検診室でのインシデント事例件数の中で患者影響レベル1の『実害なし』が47件、レ

ベル2の『処置や治療は行わず』が19件と最も多く報告されていた。(図1)⑥事例別では『受付・対応・接遇』が最も多くなっていた。⑦患者影響レベル別ではレベル0の『医薬品・医療器具の不具合』が13.1%、レベル1が66.9%、レベル2が20.0%であった。

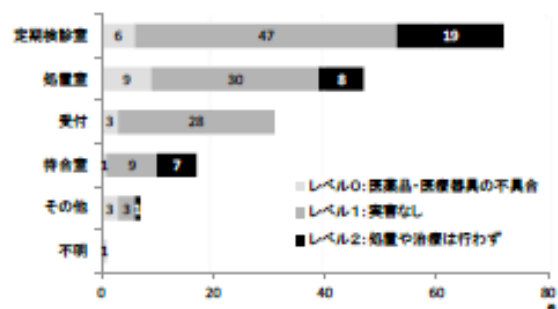


図1 場所別のインシデント事例

【考察】

当歯科の来院患者年齢は18歳以下であり、園や学校に通う児を対象としている。本調査を行う前にはインシデント事例は、来院患者数が多くなる時期、すなわち午後や土曜日、長期休みの時期に生じやすくなると思っていたが、そのような傾向は認められなかった。逆に患者数が少ない午前中に多くの報告が認められた。その理由として、午前中は午後に比べて低年齢の児や行動管理の必要な患者が多く来院されていることがあげられた。

また、定期検診室でのインシデント事例の報告が多く、かつ、影響レベルが高かったことについては、定期検診は主に歯科衛生士が1人で行っており、PMTCやサホライド塗布など処置が必要な時にインシデント事例が多いことがあげられた。

今後はこの調査をもとにインシデントの起こりにくい環境づくりを進めていきたい。

【文献】

1) 徳永順一郎: 小児歯科臨床における「ヒヤリ・ハット」事例～その予防と対処法～, 小児歯臨, 18(12), 45-54, 2013.